

L O N D O N - T O K Y O - N A G O Y A

ALLOTMENT

http://www.allotment.jp

ANNUAL ART MAGAZINE

//initiation of the project//exhibition 2010 LONDON -TOKYO

//review of YOGO NAOKO//report on travel award 2010

//review of DAISUKE HAYATA//artists' archive

vol.01
Spring
2011



アロットメントから発信する9名のアーティストたち

若手アーティスト支援のためのトラベルアワード設立

ロンドン、東京、そして今年は名古屋で開催

2010年受賞者、隼田大輔氏は賞金で屋久島へ

エドワード・アリントン、シャーロット・ボナム＝カーターによる批評文

| アロットメント / ALLOTMENT

| 事務局 / SECRETARIAT

近藤正勝 / MASAKATSU KONDO

江坂恵理子 / ERIKO ESAKA

新見永治 / EIJI SHINMI

| プレス / PRESS

大西正紀(モサキ) / MASAKI ONISHI (mosaki)

田中元子(モサキ) / MOTOKO TANAKA (mosaki)

| アーティストアーカイブマネージャー / ARTISTS' ARCHIVE MANAGER

腰原慶子 / KEIKO KOSHIHARA

| E-mail: Info@allotment.jp

アロットメントのはじまり

このプロジェクト ALLOTMENT (アロットメント) は 2005 年 12 月に 34 歳にして交通事故で他界した若き美術作家、與語直子の活動を振り返りながら、彼女の友人たちができることを考えて始めたささやかな活動です。

彼女は自己の人生と向き合いながら作品制作を続けて行く中で、現実的な多くの困難に直面し乗り越え、作品を生みだし発表しようとしてきました。そしてその強い意志と行為こそが彼女が作家であった証でした。同時にそこに生み出された作品こそ、無言の価値を認められ、一片の希望を与える美術というものになるのかもしれません。

2005 年、このプロジェクトは、そんな美術の一片のかけらを手にしようと試行錯誤を繰り返す作家を支援するために、最初の出発点として TRAVEL AWARD (制作旅行援助金) を開設しました。プロジェクト ALLOTMENT / 家庭菜園で何を育てることができるのか、小さいながら土壌を耕して種をまく作業を始めます。

Our ALLOTMENT

“ALLOTMENT” is a travel award established in 2009 to commemorate the life and work of artist Naoko Yogo. The travel award provides opportunities for young Japanese artists to travel, with the aim of enhancing their experience, broadening their knowledge and vision, and developing and nurturing their work.

Before Yogo passed away in 2005, she devoted her time and energy to her allotment in London and her artistic career. It was an important part of her life, a source of great joy as well as hard work. Chris Roberts recalls one of her stories about her allotment: There were no taps on the allotment so she had to carry water there herself ... She had worked out the bare minimum each plant required, no more than a glassful each ... it was just a small habitual act of kindness that would result in something coming to fruition.

The ALLOTMENT aspires to develop a 'biotope' : a territory of regular environmental and physical conditions in which individuals can realise their own form. In order to do so, firstly we organize an annual travel award to encourage the artist to be out of their studio by providing the Travel Award. Secondly, we organize a website where people can network and keep a record of their current activities. Thirdly, we organize various presentation platforms, such as interviews, exhibitions and reviews for our annual magazine, stimulating an exchange of ideas.

With respect to Yogo's ethos of enthusiasm and care, paying attention to details with patience, and never fearing trial and error in developing both artistic practice and a community of artists. Hence, the ALLOTMENT would like to support artists who, like her, are guided by a passion to produce their work and endeavour to pursue their dreams.

ロンドン - 東京

與語直子は 1993 年に渡英し、チェルシー・カレッジ・オブ・アート & デザイン 彫刻科を 1998 年に卒業しました。その後ロンドンを拠点に作品を制作し続け、自己の表現手段を白黒の写真に移行していきました。主な被写体はランドスケープでスペイン、チェコや南米のベネズエラなどに撮影旅行を繰り返し、亡くなる数週間前にはスペインのグラナダで 400 ショットの撮影をしていました。残念ながらこれらを自分の手で現像プリントすることはできなかったのですが、彼女の友人達の手でそれらは作品となり、ロンドンでの展覧会そして若手作家の支援のプロジェクトへと発展することになりました。

2009 年にアロットメントプロジェクトを始動。ウェブサイトを開設すると同時にトラベルアワードの告知をおこないました。さらに 10 月には與語直子作品集 / GRANADA (蒼穹舎) を刊行。同年 12 月にはロンドンの『チェルシー・フューチャー・スペース』にて與語直子の個展を開催。さらに 2010 年 2 月には東京に巡回、アートスペース KANDADA でのオープニングパーティで、初年度のトラベルアワードの受賞者を発表し、新聞各紙に活動を紹介する記事を書いていただきました。

2010 年度トラベルアワードには国内を中心に 53 名の応募があり、審査員の西村智弘、近藤正勝両氏による厳正な審査の結果、隼田大輔さんが受賞することになりました。またこのトラベルアワードの応募者を軸に、ウェブサイトでアーティスト・アーカイブの構築を開始しました。今後も若手作家の支援を継続的におこなって行く予定です。

London - Tokyo

Naoko Yogo moved to London in 1993 and completed her studies in Fine Art at Chelsea College of Art and Design in 1998. She continued working in London following her graduation and shifted her practice from sculpture to black and white photography. Her main photographic subject was landscape and she travelled by herself to Spain, Czech Republic and Venezuela. Prior to her death in 2005, she took over 400 shots in Granada in Spain. Unfortunately, she could not process these images with her own hands, but her friends developed and exhibited the work posthumously in London and initiated the project to support other young artists.

In 2009, we set up the website and announced the first travel award. The NAOKO YOGO/GRANADA was published by Sokyusha in October of that year. We have organised the touring show at KANDADA art space, Tokyo in February 2010 where we announced the winner of the award, which was given much support by the media – more than 53 applications came through our doors, an impartial judgement was made by art critic Tomohiro Nishimura and artist and the founder of ALLOTMENT Masakatsu Kondo, choosing Daisuke Hayata. We would like to continue to support young artists by, fine-tuning our approach to find the right direction for future possibilities.

2011 年、愛知で開催

ロンドン、東京と巡ってきたアロットメントの展覧会は、2011 年に與語直子の故郷、愛知県の「長久手文化の家」にて 2011 年 4 月 24 日～5 月 5 日に開催されることになりました。本年も引き続き、彼女が他界する直前に撮影したスペイン・グラナダのランドスケープを展示します。出品作品で與語は、風景を冷静な視点で地誌的に捉えると同時に、自己の内部空間を叙情的に映し込むスタイルを確立しました。本展では、第 1 回トラベルアワード 2010 年の受賞者、隼田大輔新作品展も同時開催します。アワードの賞金で 3 回にわたり屋久島を訪れ、闇の森林を撮影した彼の作品を展示します。また 2011 年 4 月 24 日の本展覧会オープニングでは今年のトラベルアワードの発表と授賞式を行います。

Open in Aichi, JAPAN in 2011

After touring Naoko Yogo's exhibition through London and Tokyo, ALLOTMENT will hold a further show in Nagakute Town Culture House, in Naoko's hometown of Nagakute, Aichi Prefecture in 2011. The show will present selected works from Granada, Spain. The context of the work will reflect on the self and one's internal vision through a lyrical interpretation of topography. This will be further enhanced by exhibiting at her childhood home connecting her formative experiences of place with her artistic practice. Along with her work, we are pleased to exhibit works by Daisuke Hayata, the first award winner. The exhibition will be open from 24th of April 2011 and an announcement of the next winner will be made at the opening night.



募金のお願い Contributions

このプロジェクトは、故與語直子のわずかながらの遺産を元として始まり、友人などの温かい支援とボランティア活動で運営しています。今後もしもできる限り若手の優秀なアーティストの支援を継続しておこなって行く所存です。美術作家が少しでも自由に解放され、作品制作ができるよう、アートをとりまくより良い未来のために、募金をしていただけると嬉しく思います。寄付して頂きました募金使用用途のご報告は、毎年発行する予定の『ALLOTMENT MAGAZINE』にて報告してきます。小額でも非常に助かります、どうぞ下記の口座番号まで募金を宜しくお願いいたします。また、ご支援の暖かいメールだけでも嬉しく思います。

ALLOTMENT 事務局 : info@allotment.jp

- * 銀行 : 三菱東京 UFJ
- * 店番 : 796 (尾張旭支店)
- * 口座番号 : 0044481 (普通)
- * 振込先名 : アロットメント

そのときは特別なことと思わなかったが、今では鮮明に思い出せる。私たちは、直子の夫で画家の、近藤正勝が参加したグループ展のレセプションで、彼女と話をした。私たちが帰らなければならない時間になっても、彼女はまだ、彼女と話し足りない友人たちに囲まれていた。私たちはさようならを言い、彼女は背を向けて歩き去った。細身で美しく、気取らないが気品溢れる女性だ。それは何気ない日常の、小さな出来事の一つだった。だが結果として、記憶に刻まれることになった。それから数日後、彼女が他界してしまったからだ。自転車で通勤途中、左折するトラックに巻き込まれて、この世界から、彼女の作品から、彼

目のようで、そのドアは、入り口という意味もふまえると、口のように見える。この写真の中に人物はいないが、不思議なほどポートレイトのようだ。

家、建物は私たち自身の延長である。その境界は私たち自身がもっている境界の象徴である。私たちは建物の中に暮らすのと同じように、自らの体の中に住んでいる。この一枚の写真が見せているのは、粗末な小屋である。しかし、家の基本的な条件を満たしている。その壁が与えてくれる安堵、そこで与えられるもてなし、私たちが眠り無防備になる夜、その恐怖から守ってくれるもの、死そのものから私たちを守っているもの、これら全てを喚起する。暗闇の中で撮ら

Photographs)」と同じように、注意深く見られることなどなかったであろう景色が被写体である。しかしながら、またしても木々がある。それらを介して命が見える。彼女の見事な明暗の表現で、私たちは彼女が見たままの世界を感じることができる。彼女はそこで「Night Photographs」とは対照的な光と出会った。私たちは、彼女の遺作となった「Granada Photographs」に、強い光で消し飛ばされそうな風景を見るが、それは、彼女がそこで影を見つけたということでもある。

中判カメラは実に奥深い機材であり、その中のフィルムもまた然りである。フィルムを使った写真

失われた風景

| エドワード・アリントン | 訳：三瓶拓郎 | Mikame Takuro

女が奪われてしまったから。

與後直子はとても外交的なアーティストで、彼女の生活は大勢の人々と共にあった。しかし、彼女の作品から彼らの存在を感じることはない。彼女の主な作品は、中判カメラで撮影された白黒の風景写真だ。それら作品を見さえすれば、彼女がその媒体を熟知していたことは明白である。レンズであり、カメラであり、光がどのようにフィルムに影響するかである。彼女の最初のシリーズ作品「Night Photographs」は、この考えを裏付ける。その構図から、緻密で内面的な厳密さが見える。一つの作品では、線路が画面の左から右へと曲線を描き、中央部分で光が溜まっている。小さな茂みが、生命を保つことすらできないような地面から生えている。そして、この撮影を可能にしたたった一つの光源は、二つの街灯だけである。別の一枚には、雪で覆われた道と、窓で埋め尽くされた箱のようなビルが見てとれる。輪郭のみの草木と、大きな木（木々は直子の作品に頻出する素材）も見える。ここでも光源は人工的なものだ。どちらも非凡な描写であり、緻密に計算された構図である。これら写真の中に人の姿はない。なぜなら人々は家で眠っている時間なのだ。でも直子は違う。彼女はこの暗闇の中で、ほんの僅かに存在する光を、カメラの中に捕らえ続けた。



私の目の前には「Night Photographs」からのもう一枚の白黒写真がある。そこに写るのは一軒の納屋である。家畜を囲い、農具を仕舞っておく場所である。誰もが目を留めることなく通り過ぎてゆく建物だ。しかしこの作品の構図は、あえてそれを見せている。画面の左側から落ちる光、かすかに浮かぶ木々の輪郭、くっきりと映し出された屋根の形状。前面の別の木に葉はなく、写真の深い黒の中にそのほとんどが隠されている。地上には雪がある。生きる者には最も厳しい冬なのだ。屋根が作る影は二つの切れ長の

れたこの写真は、直子が恐れることなく生を信じた証であるとともに、建物とは私たちにとって何を意味するのかという、彼女の深い理解をも示す。

直子と正勝の家はかつて、そして今も、“シー・シー・シー”(Clapham Community Centre の頭文字から)として知られ、友人たちはそこに度々集い、料理や音楽、おしゃべりなどを楽しんだ。生前直子はその集まりの中心で、今日も“シー・シー・シー”には、彼女のその精神が生きている。「窓 (window)」という単語は、アイスランド語の「風 の 目 (windauge=wind eye)」に由来する。光、風、空気が家の中へ入れる穴を意味する。また、西洋では眼のことを「魂への窓」とも解釈する。「カメラ (camera)」という単語は、部屋を意味するラテン語から来ている。「camera obscura (カメラ・オブスキュラ=組み立て式写真機の胴体)」の文字通り、現在のカメラの先駆けである。私は、この一見単純に見える直子の写真から、彼女というよりも、芸術家としての彼女を感じる。ひとりの日本人アーティストが夫とともに西洋で家庭を築き、その家を多くの人に解放し、もてなした。写真家の眼を使って、心の窓を開け放って。この写真の中の小さな納屋は、まるでカメラだ。内側に空間があり、正面に口が開く。それは小屋の眼であると同時に、彼女の眼でもある。この暗闇の中で撮られた小さな建物は、彼女がいつも大切に持ち歩いていた中判カメラにも似ている。それらは私たちの窓となって、彼女の内面世界へと私たちを誘う。この納屋は人間や、家畜や、道具を守った。彼女のカメラは、その最後のフィルムを守った。

與後直子はチェルシー・カレッジで彫刻家になるべく教育を受けた。それは彼女の写真から見てとれる。彫刻とその形は光によって現れる。私も彫刻家として、物体に落ちる光を彫刻的な色として視るようにと教えられた。形を見なければならぬとき、光がどのようにその表面を流れるのかを考えなければならぬ。彼女の写真はその教えに沿っている。彼女には辺りの風景さえも彫刻的に見えていた。彼女はこの造形の知識を、形を視ることに変換させたのだ。彼女は、写真表現とカメラにその可能性を見出した。そしてカメラと旅し、レンズを通して見て、絞りをセットした。ビルパオで、ベネズエラで、チェコで、そして最後になってしまったグラナダで、撮影した。この展示は、彼女が最後に持ち帰った40本に及ぶフィルムの中の一部である。彼女が決して見るもののなかったネガから焼かれた写真である。ここでは、開拓の及ばない広大な大地を見せる。そしてまた、「Night

作品が、どれほど厳格なコンセプトを求められ、容赦のない行程を経て生まれるのか、デジタル化の進んだ現代においては、安易に忘れられてしまう。暗室に籠ってみるまで、写真の出来不出来はわからない。彼女は、「Granada Photographs」のフィルムを現像することなく持ち帰った。言うまでもないが、その撮影は成功していた。この事実だけをとっても、彼女が思うがままカメラを操り、自らが選んだこの表現方法を会得していたことの証である。

グラナダで撮影されたこのシリーズは、直子の没後、その全てではなく、一部だけ公開されることとなった。しかしそれらの作品は、彼女が写真家として訴えたかったことを、明確に代弁している。彼女は喪われてしまったが、私たちは今でも彼女が見たままの世界を、彼女のカメラを通して見るることができる。より正確に言えば、彼女が私たちに見て欲しいと望んだ世界を、である。彼女はこれらの作品を通して、

Review:

"The Lost

私たちにこの世界の荘厳さを今一度知らしめる。そこで私たちは、暗闇と向き合い、自分たちの無力さに恐怖を感じるかもしれない。あまりにも広大な大地に、自分たちの小ささを悟るかもしれない。しかし彼女は、この世界にこそ私たちの居場所があること、私たちはこの世界の一部であるということのヒントを、いつも作品の中に残してくれていた。

この世界において何かを奪うことは容易いが、新しいものを生み出すことは困難を極める。與後直子は、彼女の短い人生を通じて、人々を一つにすることができた。このすばらしい世界の美しさをありのままに見つめ、作品として作り替えた。彼女は日本で二度の個展を成功させ、前途を期待される新人作家だったが、悲しいことに僅かな作品しか残せなかった。しかし、彼女が新しいものを発見し、作り上げたことに疑いの余地はない。これは消し去ることのできない事実である。直子の眼はこの世界から失われてしまったが、彼女の勇気、人間性、そして彼女が操った単純だが巧妙なカメラと呼ばれる機械によって、彼女の見た世界はここに存在する。何という世界であることか。

I remember it clearly now, but at the time it seemed unimportant. We had been talking to Naoko; it was the opening of a group show which included the works of her husband, the painter Masakatsu Kondo. We needed to leave, and she had so many more friends to talk to. We said goodbye, she turned and walked away, a slender, beautiful woman with great natural grace. It didn't seem to matter, it was just one of those small everyday moments which are seemingly of no consequence. Then only a short time later she was gone – on her way to work on her bicycle, a left-turning truck, and she was lost, stolen from the world and from her work.

Naoko Yogo was a very social artist. Her life was full of people – yet her work tends to be empty of their actual presence. The main body of her work is about landscape, shot in black and white using wet-process photography and a medium-format camera. Looking at her work, it is obvious that she had a very profound understanding of her medium: of the lens, of the camera, and the way the light would work on the film. Her first major body of work, the 'Night Photographs', show this clearly. There is a dense inner rigour in their composition. In one picture, a railway track curves from the left to the right of the image, at the centre of which is a pool of light. Small bushes are revealed growing in ground that looks incapable of sustaining life, and the only light – the light which made the photograph possible – comes from two electric lights. In another, we see a snow-bound street, a block-like building full of windows, the outlines of bushes, and a huge tree (trees are a common element in

Its boundaries are representative of our boundaries. We live in a building in the same way as we live in our bodies. This one image from the 'Night Photographs' shows a humble place. It is a picture of our basic shelter, an image of the home, our security and its strength, our ability to offer hospitality, its walls our protection against the darkness and fear of the night when we sleep and are most vulnerable, our protection from death itself. The photograph, taken in darkness, shows not only Naoko's lack of fear and belief in life, but also her deep knowledge of what shelter means to us.

Naoko and Masakatsu's house was, and still is known also as CCC (Clapham Community Centre), a seething hive of activity and hospitality where once Naoko was its hub; it is still driven by her spirit. In English the word window (in Japanese, mado) derives from the Icelandic windauge: 'wind eye', an aperture through which light and wind or air can enter the home. In the West we talk of the eyes as windows to the soul. Our word camera comes from the Latin for a chamber or a room, as in camera obscura, the precursor of the modern camera. In this seemingly simple photograph there is, to my mind, an image not of her, but of her life as an artist: a Japanese artist who, with her husband, had made her home in the West, who used that home to give shelter and hospitality, and who used her eyes and her mind. This small building is like a camera: there is the room inside, and the apertures which pierce its façade – its eyes – are like her eyes. This small building captured in the night is like the medium-format camera she carried with such care, which is our window into

had never been looked at properly before. But as always there are trees, and through them, life; and through her brilliant use of light and darkness we can see the form as she saw it. In the 'Night Photographs' there was no light as such, but she found it. In the posthumous 'Granada Photographs' we see a landscape presumably almost obliterated by light; and within it she found the shadows.

The medium-format camera is a very interesting instrument, and so is the film within it. Wet-process photography demands conceptual rigour, and in the digital age it is easy to forget just how unforgiving this medium is; to forget the blindness – for only the darkroom can reveal success or failure. The fact that she brought these images back unseen, and their evident success, is a testament to her command of the medium, her understanding of her chosen craft and her vision.



The final series shot in Granada, some but not all shown posthumously in this exhibition, reveal an artist who had found her voice. Despite her loss, we can still see the world as she saw it through her

Landscapes" | Edward Allington

Naoko's work). Again, all the light is artificial. These are extraordinary images, very carefully constructed. There are no people in the photographs because they were asleep in their houses. But Naoko was not: she was there in the darkness, capturing what little light there was in her camera.

I have a copy of one of her black-and-white photographs from the 'Night Photographs' in front of me. All it shows is a barn – a place to shelter animals, or to keep essential tools to make food. It is the kind of building you might pass by without looking at. But the composition of the photograph makes you look: the light falling from the left of the image, the subtle outline of the trees in the background, the clear outline of the roof. In the foreground is another tree, leafless, almost hidden in the dense black of the photograph. There is snow on the ground. It is winter, the time when living is hardest. In the shadow cast by the roof are two small slits like eyes, and the door like a mouth only in so much as it is an entrance. There are no people in the photograph, but it is strangely like a portrait.

A house, a building, is an extension of ourselves.

her inner world. If this small building sheltered humans, animals or even only their tools, then her camera sheltered those final rolls of film.

Naoko Yogo trained as a sculptor at the Chelsea School of Art, and you can see this in the photographs. Sculpture and its form are revealed by light. I was taught as a sculptor to see the light cast upon a form as sculptural colour. You have to look at the form, you have to think about how the light would dance off the form. This is very clear in Naoko's photographs: she looks at the landscape around her sculpturally. She has transformed this knowledge of making form into looking at form. Once having found her means of expression – the photograph and its machine, the camera – she travelled with it, looked through its lens and set its apertures. She worked in Bilbao, in Venezuela, in the Czech Republic and finally in Granada. This exhibition is an example of those final 40 rolls of film she shot there, negatives she never saw. Photographs showing huge expanses of seemingly uninhabited land. And again, as in the 'Night Photographs', these are places which seem as if they

camera. Or more accurately, as she wanted us to see it. In these works she brings us back to the notion of the sublime, where we can feel the fear of how small we are in the darkness, how small we are in the vastness of the landscape; but always she leaves some small clue as to how we do actually have a place and are part of it.

How easy it is to take something away, how very difficult to make something new in the world. In her life, Naoko Yogo was able to bring people together. In her work, she was able to see and transform the extraordinary beauty of the world we live in. She was just emerging as an artist after two successful shows in Japan, and sadly she leaves only a small body of work. But there is no doubt that she saw and made something new, and nothing can steal that. Naoko's eyes have gone from the world, but because of her courage, her humanity and her command of that simple but subtle machine we call the camera, the world as she saw it still exists; and what a world it is.

Allotment Artists' Archive 2010

アーティスト・アーカイブは、毎年 TRAVEL AWARD（制作旅行援助金）の応募者の中から優秀な作家を審査員が選び、データ化して行くことを基本とします。またこの情報を国内はもとより海外へも発信し、作家のプロモーションをお手伝いします。Allotment は、美術関係者から作家への仕事の依頼に関して、仲介マージンなどは一切いただくことはありません。それぞれの作家に直接連絡を取っていただける場所を提供したいと考えます。年回数を重ねながら質の高いアーティスト・アーカイブを構築して行くと同時に、未来の才能がここから育って行くことをサポートできれば幸いです。

Artists' Archive showcases shortlisted artists from the award application. They are enlisted from recommendations by established critics and artists, and by bringing into light their practice through the website. The information published in the Archive will support the promotion of their works in Japan, and globally. The Archive is operated on a non-profit basis. Over the year we want to develop a high quality archive, and support the development of talents for the future.

|Review:

New work by Daisuke Hayata

隼田大輔の新作について

シャーロット・ボナム＝カーター（美術評論家、キュレーター）
/ Charlotte Bonham-Carter, curator and critic
日本語訳：腰原慶子 / Keiko Koshihara



isanatori #005 lambda print

隼田大輔は今回の受賞により、言葉だけでは表現できない、闇という自然の深さを印象的な写真で表現することに成功した。1981 年兵庫県に生まれ、横浜市立大学出身、日本だけではなく、フランスでも作品発表を行っている。2009 年から「いさなとり」の制作を始めた。「いさなとり」とは、短歌の枕詞の「鯨魚取り」から、海、浜、灘を示す。隼田氏は現代に合わせ夏、太陽、青そして死を物語る「海」を題材においた。被写体に地理的な隔たりとして映し出される海は、存在する土地の終わりと同時に知らざる誇大な始まりを暗示している。しかし、絶え間ない水の展望に直面し気づくことは、どこまでが地政学的な境界線なのか、あやふやになる現実でもある。

隼田氏の写真は、「海」という存在を「未知」の世界に化身する。接写されたターコイズ色の一滴の水、軽やかに精気に満ちた光線を浴びる海、海をフレームする陸地はあえてベールに隠されるよう描写され、人、船、動物の姿は見せない。海はアノニマスな状態を示し、人間が作り上げた自らを圧迫し首を絞める状態を作り出した現代社会を比喻しているかのようだ。

洗練された「海」という表現から、「闇」というテーマにシフトしていった事はとても自然な事だと思う。2009 年から「うばたま」も制作し始め、このタイトルも短歌の枕詞から典拠し、夜、黒、夢、そして闇から由来する。写真の行程は光の記録であるのだから、闇を映し出すというのは挑戦的なタスクである。隼田氏は、人工的な光の中で生きる現代に本当の闇はありえるのかという疑問からこの着想し、一人月夜の下で、黙々と仕上げていった。デジタル加工で色彩をコントロールする事が主流になっているが、隼田氏は敢えてフィルムで被写体を映し出す。それは、写真が「現実の光の記録」即ち「現実の記録」と捉えるからだ。根源的な屋久島の描写は、火山活動から生まれた南の小さな島の沈黙の一瞬を吸い込むカメラという暗黙な傍観者によって本来の価値を見いだされた。僅かな月光の中で映し出された作品は「いさなとり」の海のように、洗い出された荒々しい森や小川の奥に潜む未知なる壮大さを探究する。しかし、「うばたま」には漠然とした切迫する運命や默示的な感覚を感じざ

るをえないのは、少年時代に地元で起きた阪神淡路大震災やオウム・サリン事件等のニュースなど、日常を奪われるという悲劇を体験したからなのかもしれない。

「いさなとり」や「うばたま」は、闇という言葉なり海の物質的なスケールという表層で止まらず感情をも引き出す。ただそれだけでは終わらず、壮大さという美術史の文脈や写真の歷程の中で自然や未知の世界を見出している作品になった。



ubatama #009 lambda print

Daisuke Hayata is a Japanese artist and a recipient of the 'Allotment Travel Award 2010.' Hayata received the award for his striking photographic work capturing such ineffable natural enormities as 'darkness'.

Born in Hyogo Prefecture, Japan in 1981, Hayata studied at Yokohama City University, before spending some time in France. In 2009, he began work on a series of photographs titled Isanatori (2009). Isanatori is a conventional epithet used in traditional Tanka poetry, a genre of classical Japanese verse. The term has many possible meanings, but here the artist interprets it as notions of summer, sun, blue and death. But, its meaning frequently comes back to the sea. Isanatori is comprised of Hayata's photographs of the sea. Hayata is interested in the sea as a division of geographic space. It frequently marks both the end of the landscape, but simultaneously, the beginning of an endless expanse of the unknown. When confronted with an uninterrupted vista of water, it is hard to understand that even the sea is geopolitically divided.

Hayata's photographs of the ocean position the sea as an embodiment of something that is unknowable. Close-up shots of turquoise droplets of water, wispy, ethereal images of the sun shining onto the ocean and photographs of the sea framed by a

corner of land are determinedly unrevealing images. Humans, boats and wildlife are all absent from the images. The sea becomes a kind of anonymous entity, one of few features in modern life that occasionally overpowers and outsmarts human design.

It is not surprising that, following Hayata's exquisite representations of the sea, he next turned his focus to 'darkness.' Since 2009, Hayata has been working on a series of photographs titled Ubatama. The title is again an epithet from ancient Japanese verse, meaning night, blackness, dreams, and always, darkness. Given that the photographic process relies on the record of light, the very notion of setting out to capture darkness is a bold assignment. Hayata was driven to the task by the idea that with the invention of artificial light in the modern world, rarely, do we know true darkness. He made the decision that all of his images would be taken at night, using only the light of the moon.

Hayata also works with film, as opposed to using a digital camera. Although the use of digital manipulation techniques are increasingly popular with artists seeking colour enhancements and other adjustments, Hayata prefers to stick to the idea that photography is, as he says 'a recorder of reality through light.' His pared down representations of Yakushima – an island in the south of Japan formed by past volcanic activities – gives rise to the notion that the camera can still be a silent observer, a quiet infiltration into a moment of stillness. Like the images of the sea in Isanatori, Hayata's photographs of craggy forest trees and thick, meandering streams, only just visible in the hazy moonlight, are also an exploration of the sublime, of something great and unknowable. However, there is also a vague sense in Ubatama of an impending doom, an apocalyptic feeling that may have been influenced by the artist's own experiences as a young boy of the Kobe earthquake and the Sarin gas attack, episodes that displaced everyday life with a sudden awareness of the capacity for tragedy in this world.

Isanatori and Ubatama are both captivating and emotive bodies of work that explore not only notions of darkness and the physical and psychological enormity of the sea, but also the rich art historical trajectory of the sublime and the use of the camera to represent the natural and unknowable world.

Artist Archive 01

アー・ユー・ミーニング・カンパニー Are You Meaning Company

<http://areyoumeaning.com/>
areyoumeaning@gmail.com

- 1999 年、東京にてアー・ユー・ミーニング・カンパニーを設立。現在ベルリンにて制作活動中

- 主な展覧会

2011: 「The Arranged Marriage」 Smartloft Apt & Art, Berlin
2010: 「We are the islands」 Kunstquartier Bethanien, Berlin
2009: 個展「Are You Meaning Company」 Akademi Schloss Solitude, Stuttgart
2008: 「Whistling Dixie – Are You Meaning Company & Peter Liversidge」 Gallery Lucy Mackintosh, Lausanne
2007: 「美術館へ行こう」 ピュフェ美術館, 静岡
2006: 「アートと話す / アートを話す (ダイムラー・クライスラー・アート・コレクション)」 東京オペラシティアリー, 東京
2005: 「Our Garden」 秋吉台国際芸術村, 山口
2003: 「Utopia Station」 50th Venice Biennale, Venice

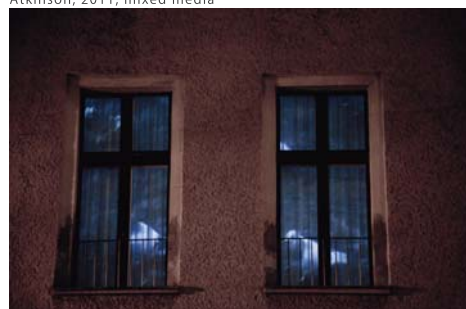
Established Are You Meaning Company in 1999, Tokyo. Currently lives and works in Berlin.

- EXHIBITIONS

2011: The Arranged Marriage, Smartloft Apt & Art, Berlin
2010: We are the islands, Kunstquartier Bethanien, Berlin
2009: You Meaning Company, Bernardo Oyarzún, Sherar Rimpsey, José Carlos Teixeira and Gwen van den Eijnde, Akademi Schloss Solitude, Stuttgart
2008: Whistling Dixie – Are You Meaning Company & Peter Liversidge, Gallery Lucy Mackintosh, Lausanne
2007: Let's go to the Museum, The Bernard Buffet Museum, Shizuoka
2006: Conversation with Art on Art, Tokyo Opera City, Tokyo
2005: Our Garden, Akiyoshidai International Art Village, Yamaguchi
2003: group: Girl! Girl! Girl!, Tokyo Opera City, Tokyo
2003: Utopia Station, 50th Venice Biennale, Venice



Love Story (Room No.1), Collaborate with James Gregory Atkinson, 2011, mixed media



Love Story (Room No.1), Collaborate with James Gregory Atkinson, 2011, mixed media

Artist Archive 02

太田 麻里 Mari OTA

<http://www.mari-ota.net/>
mari@mari-ota.net

- 1982 年、名古屋市生まれ。2006 年、多摩美術大学絵画学科油絵専攻卒業。2007 年、Royal College of Art 交換留学修了。2008 年、京都市立芸術大学大学院絵画専攻油画修了。

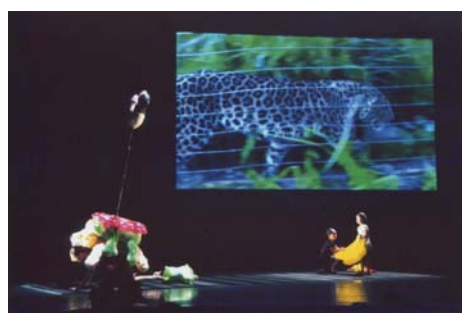
- 主な展覧会

2010: 「虎、虎、虎」 Galerie Clemens Thimme, カールスルーエ (ドイツ)
2010: 個展「シシュフォスにチョコ」遊工 q 房, 東京
2009: 個展「まわる」shin-bi, 京都
2009: 個展「太田麻里展」ミヅマ・アクション, 東京
2007: 個展「etude」Gallery K, ソウル (韓国)
2006: 個展「新世代への視点 2006 "my diary"」ギャラリー東京ユマニテ, 東京
2005: 個展「humanite lab vol.2 "unfinished zoo"」ギャラリー東京ユマニテ, 東京

- Born 1982 in Nagoya, and graduated from the department of oil painting at Tama Art University in 2006. Participated the Exchange programme to Royal College of Art in 2007 and completed MA in painting from Kyoto City University of Arts.

- EXHIBITIONS

2010: Tora, Tora, Tora, Galerie Clemens Thimme, Karlsruhe
2010: solo: Chocolate for Sysphus, Youkobo, Tokyo
2009: solo: Mawaru, shin-bi, Kyoto
2009: solo: Mari Ota, Mizuma Action, Tokyo
2007: solo: Etude, Gallery K, Seoul
2006: solo: my diary by Mari Ota: the perspectives for the new generation 2006, Galerie Tokyo Humanité, Tokyo
2005: solo: unfinished zoo: humanité lab vol.2, Galerie Tokyo Humanité, Tokyo



Performance shot of Chocolate for Sisyphus, 2010, Youkobo, Tokyo



Performance shot of Untitled, 2010 / art pia hall, Nagoya

Artist Archive 03

城戸 保 Tamotsu KIDO

<http://bit.ly/fsBSy3>
kidotamo@aol.com

- 1974 年、三重県生まれ。1999 年、愛知県立芸術大学美術学部油画専攻卒業。2001 年、愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。2002 年、愛知県立芸術大学大学院美術研修科修了。

- 主な展覧会

2011: 「アイチ・ジーン」 はるひ美術館, 豊田市美術館, 愛知
2010: 個展, ギャラリー東京ユマニテ, 東京
2009: 「放課後のはらっぱー榎田伸也とその教え子たち」 愛知県美術館, 愛知
2005: 「next station」名古屋市民ギャラリー 矢田, 愛知
2004: 「不思議な回転扉のように一写真と絵画の交流」 文房堂ギャラリー, 東京
2003: 個展, ギャラリー NAF, 愛知
2002: 個展, 日興コーディアル証券ウィンドーギャラリー, 愛知

- Born 1974 in Mie and graduated from BA in Oil Painting at Aichi Prefectural University of Fine Arts and Music in 1999. He completed MFA from Department of Fine Art Research in 2001 and MFA in Fine Art Practicum Course at Aichi Prefectural University of Fine Arts and Music.

- EXHIBITIONS

2011: touring: Aichi Gene, Kiyosu City Haruhi Art Museum & Toyota City Museum, Aichi
2010: solo: Tamotsu Kido, Galerie Tokyo Humanité, Tokyo
2009: In the little ground: Nobuya Hitsuda and his surrounding students, Aichi Prefectural Museum of Art, Aichi
2005: next station, Nagoya Citizen's Gallery YADA, Aichi
2004: fushigi na kaiten tobira no youni – exchange between photography and painting, Gallery Bumpodo, Tokyo
2003: solo: Gallery NAF, Aichi
2002: solo: Nikko Cordial Securities Window Gallery, Aichi



forest #01, gelatin silver print, 1050 x 8250mm



lily, 2008, gelatin silver print, 525 x 1080mm

Artist Archive 04

佐野 陽一

Yoichi SANO

<http://bit.ly/hIYAJm>
yoichi.sano@gmail.com

- 1970 年、東京都生まれ。1994 年、東京造形大学卒業。
1996 年、東京造形大学造形学部研究生修了。2004 年、文化庁新進芸術家国内研修制度国内研修員。現在、東京藝術大学非常勤講師。北海道教育大学非常勤講師。

- 主な展覧会：

2009：個展「ひかりのみず」switchpoint, 東京
2009：「中国現代美術との出会い」栃木県立美術館
2007：「Japan Caught by Camera: Works from the Photographic Art in Japan」上海美術館, 中国
2007：「《写真》見えるもの / 見えないもの」東京藝術大学大学美術館陳列館
2007：個展「vessel」switch point, 東京
2005：個展「transparency」ツアイト・フォト・サロン, 東京
2004：「VOCA 展 2004 現代美術の展望 - 新しい平面の作家たち」上野の森美術館

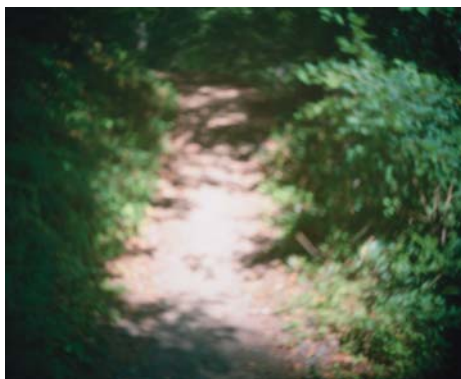
- Born 1970 in Tokyo and graduated from BA at Tokyo Zokei University in 1994 and completed Non-degree Graduate Course at Tokyo Zokei University in 1996. He was awarded scholarship by Agency For Cultural Affairs Scholarship Japan in 2004. Currently he is the associate lecturer for Tokyo University of the Arts.

- EXHIBITIONS

2009：solo: water of light, light is not seen, switch point, Tokyo
2009：Japan meets China: Our Future reflected in Contemporary Art, Tochigi Prefectural Museum of Fine Art
2007：Japan Caught by Camera: Works from the Photographic Art in Japan, Shanghai Art Museum, Shanghai
2007：The Photograph: What You See & What You Don't, Chinretsukan Gallery of The University Art Museum, Tokyo National University of Fine Arts and Music
2007：solo：vessel, switch point, Tokyo
2005：solo：transparency, Zeit-Foto Salon, Tokyo
2004：VOCA 2004, The Ueno Royal Museum, Tokyo



reservoir, 2004 - 05, Silver-dye bleach print, 1000 x 1260 mm



reservoir, 2004 - 05, Silver-dye bleach print, 1000 x 1260 mm

Artist Archive 05

隼田 大輔

Daisuke HAYATA

<http://www.hayatadaisuke.com/>
mail@hayatadaisuke.com

- 1981 年兵庫県生まれ、横浜市立大学社会学部卒業。
2004 年 Bankart1929、森山大道、鈴木理策ゼミ修了。

- 主な展覧会

2010：CORRESPONDENCE / LANDSCAPE「1 5 人の視覚提言」展ギャラリー工房親, 東京
2010：個展「うばたま」ギャラリー MuséeF(東京都写真月間企画), 東京
2009：SLICK, パリ, フランス
2009：ART OSAKA, 大阪
2009：個展「うばたま」ギャラリー工房親, 東京
2009：個展「いさなとり」ZAIM, 横浜
2005：個展「無題」ギャラリー Musée F, 東京
2001：個展「無題」横浜日仏学院, 横浜

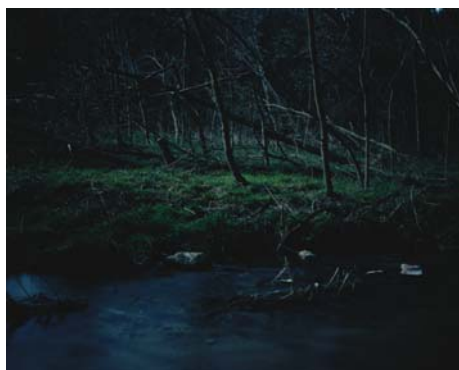
- Born in 1981, Hyogo. Graduated from BA in Social Studies, Yokohama City University in 2005 - Attended a seminar series at BankART 1921 by Daido Moriyama and Risaku Suzuki in 2004.

- EXHIBITIONS

2010：The visual perspectives of 15 photographers, Gallery Kobo Chika, Tokyo
2010：solo: Ubatama, Gallery MUSÉE F, Tokyo (During Tokyo Photography Month)
2009：SLICK, Paris
2009：ART OSAKA 2009, Osaka
2009：solo: Ubatama, Gallery Kobo, CHIKA, Tokyo
2009：solo: Isanatori, ZAIM, Yokohama
2005：solo: Untitled, Gallery MUSÉE F, Tokyo
2001：solo: Untitled, L'Institut Franco-Japonais de Tokyo et Yokohama, Yokohama



ubatama #013, 2010, lambda print, dimensions vary



ubatama #012, 2010, lambda print, dimensions vary

Artist Archive 06

平川 祐樹

Youki HIRAKAWA

<http://www.youkihirakawa.com>
youkihirakawa@yahoo.co.jp

- 1983 年愛知県名古屋市生まれ。2008 年名古屋学芸大学大学院メディア造形研究科修了。現代の物語（ナラティブ）をテーマに、映像と場所・空間の関係性を基に作品を制作する。2011 年秋よりアカデミー・シュロスリチュード招聘作家としてドイツに滞在予定。

- 主な展覧会

2010：「CINESONIKA」Simon Fraser University Theater, カナダ
2010：「あいちトリエンナーレ(企画コンペ)」, 愛知芸術文化センター, 愛知
2010：「浮森」Standing Pine - cube, 愛知
2009：「Electrofringe 09」ニューキャッスル, オーストラリア
2009：「白昼夢」愛知県美術館ギャラリー, 愛知
2009：個展「乖離するイメージ」Standing Pine - cube, 愛知
2009：「第 12 回文化庁メディア芸術祭」国立新美術館, 東京
2007：「神戸ビエンナーレ (アートインコンテナ)」リケンパーク, 兵庫

- Born 1983 in Nagoya and Completed MA in Media and Design from Nagoya University of Arts and Sciences in 2008. He will be the resident artist at the Akademie Schloss Solitude, Stuttgart.

- EXHIBITIONS

2010：CINESONIKA, Simon Fraser University Theater, Vancouver (awarded The Golden Earwax)
2010：The Nakagawa Canal -the forgotten waterside scenery in the city- as part of AICHI TRIENNALE 2010, Aichi Arts Center, Nagoya
2010：Floating Forest, Standing Pine-cube, Nagoya
2009：screening: Electrofringe 09, Newcastle, Australia
2009：Day Dream, Aichi Arts Center, Nagoya
2009：solo: Unlinked Images, Gallery Standing Pine-cube, Nagoya
2009：selected: 12th Japan Media Art Festival 2008：The National Art Center Tokyo, Tokyo
2007：KOBE Biennale, Port of Kobe, Kobe



Double Dream, 2010, site-specific video installation / 07:00 Loop / Full HD



Double Dream, 2010, site-specific video installation / 07:00 Loop / Full HD

Artist Archive 07

眞島 竜男 Tatsuo MAJIMA

[http://www.taronasugallery.com/
info@taronasugallery.com](http://www.taronasugallery.com/info@taronasugallery.com)

- 1993 年、英国国立ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ美術科卒業。1997-2000 年、スタジオ食堂参加、2000-2004 年 Bゼミ Learning System of Contemporary Art 専任講師。
- 主な展覧会：
2010：個展「北京日記」TARO NASU, 東京
2010：個展「右／左」blanClass, 神奈川
2010：個展「鶴沼日記・京都ボクシング」blanClass, 神奈川
2007：「六本木クロッシング 2007」森美術館, 東京
2003：「Sharjah International Biennial 6」Sharjah Museum / Expo Center, Sharjah (UAE)
1997：「Contemporary Art from Japan」Hafnarborg, Iceland
1994：「クリテリウム 12」水戸芸術館, 茨城
- Graduated from Goldsmiths College, University of London in 1993 and Joined in Studio Shokudo in 1997-2000. He was previously a Lecturer for B-semi Learning System of Contemporary Art in 2000-2004.
- EXHIBITIONS
2010：solo: Beijing Diary, Taro Nasu gallery, Tokyo
2010：solo: Right/Left, blanClass, Kanagawa
2010：solo: Kugenuma Diary/Kyoto Boxing, blanClass, Kanagawa
2007：Roppongi Crossing 2007, Mori Art Museum, Tokyo
2003：Sharjah International Biennial 6, Sharjah Museum / Expo Center, Sharjah (UAE)
1997：Contemporary Art from Japan, Hafnarborg, Iceland
1994：solo: Criterium 12, Art Tower Mito, Ibaraki



Beijing Diary: 10th September (detail), 2010, photograph on paper



Beijing Diary: 23rd August (detail), 2010, photograph on paper

Artist Archive 08

村上 友重 Tomoe MURAKAMI

[http://www.tomoemurakami.com/
info@tomoemurakami.com](http://www.tomoemurakami.com/info@tomoemurakami.com)

- 1980 年、千葉県生まれ。2004 年、早稲田大学第一文学部文芸専修卒業。2004 年、第六回三木淳賞。2010 年、「The Art of Photography Show 2010」1st Place Award 受賞。現在、東京藝術大学美術学部助教。
- 主な展覧会
2010：個展「それらすべてを光の粒子と仮定してみる」CASHI, 東京
2010：「The Art of Photography Show 2010」Lyceum Theatre Gallery, サンディエゴ, アメリカ
2010：巡回展「クロッシング・カオス 1999- 2009」東京 / 大阪 / 北海道 / 韓国
2008：個展「星と水」PUNCTUM Photo+Graphix Tokyo, 東京
2008：「Ephemeral」Onishi Gallery, ニューヨーク, アメリカ
2007：個展・巡回展「水、満ちる -the series of water-」新宿・大阪ニコンサロン, 東京 / 大阪
2004：個展「球体の紡ぐ線」Juna21 新宿ニコンサロン, 東京
- Born 1980 and is a graduate from BA in Art and Literature, Waseda University in 2004. Awarded for 6th Miki Jun prize, Nikon Salon in 2004 and 1st Place Award for The Art Photography Show in 2010. Currently works as the Assistant Professor, Tokyo University of the Arts.
- EXHIBITIONS
2010：solo: The universe is fine photic particles, I imagine, CASHI, Tokyo
2010：The Art Photography Show 2010, Lycuem Theatre Gallery, San Diego
2010：touring: Crossing Chaos 1999-2009, Higashikawa International Photo Festival, Hokkaido
2008：solo: the stars and the water, PUNCTUM Photo+Graphix Tokyo, Tokyo
2008：Ephemeral, Ohnishi Gallery, NYC
2007：solo/touring: the series of water, Shinjuku Nikon Salon, Osaka Nikon Salon
2004：solo: Line is woven on the globe, Juna21, Shinjuku Nikon Salon, Tokyo



Installation short of 'The universe is fine photic particles, I imagine', 2010, CASHI, Tokyo



top of the mountain, clouds and birds, 2010, C-print, dimensions vary

Artist Archive 09

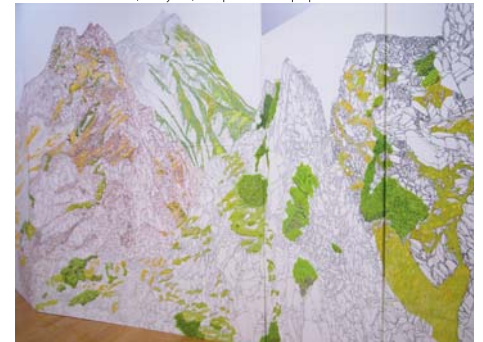
吉田 夏奈 Kana YOSHIDA

http://web.me.com/knyshd/2009/kana_top.html
knyshd@mac.com

- 1975 年生まれ。2002 年、広島市立大学芸術学部卒業。アーティストレジデンスにアメリカ / ロサンゼルス、フィンランド / フィスカルス等。2003 年以降は様々な風景を求め、ペインティングを中心に活動中。
- 主な展覧会
2011：solo: 「project N 44」東京オペラシティ
2010：「Tokyo wonder site - Emerging 148」東京ワンダーサイト本郷
2009：「Tokyo wonder wall 2009 selected work」東京都現代美術館
2007：「MONTAGNES FOR FRENCH DINING」フレンチダイニング神楽坂
2007：「FOR THE LOVE OF BEER」TY Harbor brewery 品川
2003：「MOVING HOME」パフォーマンス, 広島県 聖湖
1998：「シマシマシン」Design Festa gallery 原宿
- Born in 1975 and is graduated from Hiroshima city university, Faculty of Art in 2002. Yoshida previously participated artists-in-residency in Los Angels in USA and Fiskars in Finland. She is currently working on painting in search for various landscape since 2003.
- EXHIBITIONS
2011：solo: project N 44, Tokyo Opera City Art Gallery, Tokyo
2010：award: Tokyo wonder site - Emerging 148, Tokyo Wonder Site (Hongo), Tokyo
2009：award: Tokyo Wonder Wall 2009 - selected work, Museum of Contemporary Art Tokyo
2009：solo: Sky diving to Fiskars - open studio, Fiskars, Finland
2007：solo: MONTAGNES FOR FRENCH DINING, French Dining, Tokyo
2003：solo: MOVING HOME-over the lake, Performance, Hijiri lake, Hiroshima
1998：solo: SHIMASHI MACHINE, Design festa gallery, Tokyo



Beautiful Limit: Adventure into the endless chaos (detail), 2010, 605x910mm each, crayon, oil pastel on paper with wooden board



Beautiful Limit: Adventure into the endless chaos (detail), 2010, 605x910mm each, crayon, oil pastel on paper with wooden board